

信更中学校 校長室便り 第1号

～信更の子どもたちが、スズランの花のごとく明るく清らかに伸びてほしいとの願いを込めて～

入学式・一学期始業式 ～11名の新入生とともに～

「命二つ 中に活きたる 桜かな」 (松尾芭蕉)

標高650m、ここ信更中学校の校庭の桜のつぼみもようやくほころびはじめ(善光寺平の桜は満開ですが)、11名の新入生を迎え、全校生徒28名で元気いっぱい躍動の新学期が始まりました。生徒・職員一同、この命と命の出会いを大切にしていきたいと思えます。

豊かな自然に囲まれ、地域の人々に大切に育まれてきた信更中学校で、本年も教育に携わることができますことにこの上ない喜びを感じております。今年は信更小学校が開校しました。小中連携も一層充実させていきたいと考えております。

信更の生徒は「一人一人が何事にも誠実に真面目に取り組む」ことができます。この姿勢は、信更小中学校の財産であり可能性であると感じています。

1年生は「学校の宝」、2年生は「学校の柱」、そして3年生は「学校の顔」。将来を担う生徒一人一人がどれだけ大切か噛みしめて、職員一同精一杯支援してまいります。

さて、平成28年度がはじまりました。校長室からの最初のお話は、4月5日(木)入学式での式辞の一部を抜粋して掲載させていただきます。



十一名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

更府小学校、信田小学校、信州新町小学校との「別れを惜しむ」一年間、そして三月でしたね。今日、皆さんは、「新しい出会いを大切に」「新しい生活に生きる」スタートラインに立ちました。義務教育の仕上げとなる中学校三年間の第一歩を踏み出す皆さん一人一人の顔を見ますと、緊張の中にも瞳が輝いて「よし、頑張るぞ」という意気込みが伝わってきます。(中略)

入学式に際しまして、中学校の生活が充実するために、私からは、三つのことをお願いします。

その第一は、「勉強をしっかりとやる」です。中学生の本務は勉強です。難しい学習もたくさん出てきます。しかし、逃げることなく、こつこつと勉強をしていくことです。中学校で大事なことは、自分から進んで勉強をすること。それが、確実に自分の力となります。

二つ目は、「挑戦して乗り越える」です。勉強、部活動、生徒会活動など 様々な場面で、いくつも努力目標を持ち、勇気を持って、それに果敢に挑戦してください。その途中では失敗をすることもあるでしょう。それを乗り越えて、「やった」「できた」という達成感、小さな自信を積み重ねてください。その体験の積み重ねは、やがて大きな自信となって、かけがえのない自分を創っていくはずです。

三つ目は、「出会った友・周りの人を大切にする」です。ここで、「野ざらし紀行」にある松尾芭蕉の一句を紹介します。

「命二つ 中に活きたる 桜かな」

春が来て生き活きと咲き誇った桜の花の中で、二つの命が生きてあえる喜びを表しています。私は今日の皆さんの出会いの日に、この句の「命二つ」という初めの言葉を思い、又、もうすぐこの瀬原が丘に咲く桜の木を思いました。この句の、命二つという発想が心に強く響きます。私たちは、命を自分一人のものと考えがちです。確かに自分の命は、かけがえのない命で、他の人と取り換えようのないものです。しかし、松尾芭蕉は、「命二つ」と切り出します。家族と自分、友人と自分、他者と自己、それぞれがその命を自分の中に大切に抱えながら、もうひとつの命に支えられ、「命二つ」の中で生きているのです。自分にかかけがえのない命は、相手にとってもかけがえのない命だということを改めて考えたいと思います。

互いに命の尊厳を認め合い、大切にし合うことは、信更中学校でも大事にされています。これから出会う友だちや先生と共に、団結、協力、友情の絆を深め、学校生活を充実させてください。

以上、激励の意を込めて、入学のお祝いの挨拶とします。

新任職員の紹介

この度の人事異動で4月に転入する職員を紹介させていただきます。
これから公私ともに大変お世話になります。よろしく願いいたします。

「内にも外にも開かれた学校づくり」をしていきたいと考えています。信更中学校、生徒のことなどで、ご心配なことやお気づきの事などありましたら、どんなことでもご連絡・ご相談いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

また、保護者の皆様はもちろん、地域の皆様も気軽に学校にお越しくください。生徒の様子をご覧いただくとともにご意見をお寄せいただき、信更のよさや強みを生かした学校づくりを共におこなってまいりましょう。ご協力お願いいたします。

(文責 小山 貴)